

前回定例会(平成20年10月1日)以降の行政の動き

平成20年11月5日
新潟県

1 安全協定に基づく状況確認

○ 平成20年10月10日(月例状況確認) 県、柏崎市、刈羽村

<主な確認内容>

- ・ 1～7号機運転保守状況について(9月分)
- ・ 工事計画の概要(第2四半期)
- ・ 7号機主排気筒耐震強化工事
- ・ 6号機燃料取替機耐震強化工事
- ・ 6号機原子炉建屋の非管理区域への漏水対策
- ・ 7号機可燃性ガス濃度制御系機能検査
- ・ 荒浜側放水口工事

○ 平成20年10月28日(状況確認) 県、柏崎市(刈羽村は都合により欠)

新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議委員(橋本哲夫[新潟大学名誉教授]、今泉洋[新潟大学工学部教授])らとともに、現地を確認しました。

<主な確認内容>

- ・ 1, 3号機排気筒モニタサンプリング配管
- ・ 6号機非管理区域排水用屋外サージタンク
- ・ 海水モニタ

2 技術委員会の開催

[地震、地質・地盤に関する小委員会]

○ 平成20年10月15日

<議題>

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所周辺の地質調査結果について
- ・ 新潟県中越沖地震の観測記録と基準地震動について

<委員からの主なコメント>

【F-B断層の長さについて】

※ 原子力安全・保安院が2～3月に行った新潟県中越沖における海上音波探査結果について、原子力安全・保安院担当者から「F-B断層北側の活断層はなく、F-B断層の長さ36kmは妥当である。」等の説明があった。

- ・ 佐渡海盆が形成された過程についての東京電力の説明については納得していないので、改めて説明が必要。
- ・ 小委員会で議論すべき問題は、耐震安全性を考える上での課題であり、当該地域の地形が形成された過程はサイエンスとしては重要であるが、そこまで詰める必要はないと考える。

○ 平成20年11月5日

<議題>

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所周辺の地質調査結果について
- ・ 新潟県中越沖地震の観測記録と基準地震動について

- ・ 地震、地質・地盤に関する小委員会の議論の状況について

[設備健全性、耐震安全性に関する小委員会]

○ 平成20年10月21日

<議題>

- ・ 各号機の点検・解析の進捗状況について
- ・ 「7号機の設備健全性に係る点検・評価報告書（機器レベルの点検・評価報告）」について（東京電力）
- ・ 「7号機の設備健全性評価に係る報告（機器単位の設備健全性）」について（原子力安全・保安院）
- ・ 「7号機の設備健全性に係る点検・評価計画書（改訂5）」について（東京電力）
- ・ 「7号機の設備健全性に係る点検・評価報告書（建物・構築物編）」について（東京電力）

<委員からの主なコメント>

【7号機の機器単位の健全性評価結果について】

- ※ 原子力安全・保安院が取りまとめた設備健全性評価に係る報告（機器単位の設備健全性）について、原子力安全・保安院担当者から「これまでに点検・評価が完了した7号機の機器に疲労強度に影響を与えるような塑性変形は生じておらず、健全性が維持されていると判断している。」等の説明があった。
- ・ 7号機の点検結果だけでなく、より大きな揺れを生じた他の号機の点検結果も踏まえて、健全性を判断すべき
 - 機器は各号機で1つの単位となっており、健全性の判断は、他の号機の点検結果に影響されない【原子力安全・保安院回答】
- ※ このことについては論点を整理し、引き続き議論していく。

- ※ 今後の予定 「設備健全性、耐震安全性に関する小委員会」 11月12日
「地震、地質・地盤に関する小委員会」 12月2日

□柏崎刈羽原子力発電所7号機の建物・構築物に関する設備・耐震小委員会北村委員長コメント

10月29日、原子力安全・保安院が柏崎刈羽原子力発電所7号機の建物・構築物の安全確認に関する見解を出したことについて、10月30日、設備健全性、耐震安全性に関する小委員会の北村正晴委員長が下記のとおりコメントを出しました。

昨日開催された、「第7回中越沖地震における原子力施設に関する調査・対策委員会（委員長 班目春樹 東大教授）」において、柏崎刈羽原子力発電所7号機の建物・構築物の安全確認に関する原子力安全・保安院の見解が示されました。

建物・構築物の健全性については、これまでも県の設備・耐震小委員会において、東京電力から説明を受け議論しているところですが、国の見解についても、議論する必要があります。

このため、委員に国の資料を送付し問題点などについて検討していただくよう依頼したところであり、11月12日に開催が予定されている設備・耐震小委員会において、しっかり議論してまいります。